

共にしあわせ産みだす党 日本共産党 市議団ニュース

第2100号 2024年04月28日

日本共産党 根室市議団
根室市宝林町4-203 TEL0153-23-6023

吹き抜けの玄関に入っただけで目を引く銅版と銅の半球や円柱で形作られた巨大なアートは「母なる大地 聲の輝き」というタイトルです。制作者の銅版画家、池田良二氏の解説によると「サステナビリティー（持続可能性）」「連帯」「活気」という3つのテーマを表しています。パブリックアートとして様々な意味が込められた作品とのこと、その説明版も新庁舎内に掲示されるそうです。

壁面装飾を寄贈した大地みらい信用金庫の遠藤理事長は「建物は時代の生き証人であり、地域の思いを寄せる拠点として、力を出し合っただけでなく、困難も共に乗り越えていきたいと思います」と挨拶の言葉を述べておられました。

根室市役所 新庁舎 5月7日より稼働 内覧会と壁面装飾の除幕式が行われる

連休明けの5月7日より供用開始する根室市役所の新庁舎の内覧会とエントランスホールに掲げられた壁面装飾の除幕式が4月20日に行われました。



木材が多く使用された4階の市民交流サロン(防災啓発コーナー)は市民が自由に利用できる。市街地と根室港が眺望できる。1階の防災ギャラリーは、通常時は市民の休憩や期日前の投票所、また災害時の一時避難場所としての役割も担う。



総合案内の上部には200インチの大型ディスプレイが設置される、下のモニターには行事予定等案内などを映す。総合案内コーナーは開庁当初は職員を配置する予定だが、必要無くなれば自由に撤去することも出来る可動式に。



令和4年度に建設が始まった新庁舎は駐車場や旧庁舎の解体等を含め令和7年度まで工事期間で、建設費は総額56億957万(現予算)です。地上4階、地下1階でエレベーターも2機設置されています。

各フロアのバリアフリートイレには、ユニバーサルシート(赤ちゃんも大人の方もオムツ交換等が可能な開閉収納式のベッド)を配置。また女性用トイレにはパウダースペースも確保されている。



トイレは大規模災害で下水が壊れても使用できるように排水貯留槽を設置し、水道も自家発電のポンプで上階に組み上げることができるようです。



災害対策本部会議室の大型モニターから、港など災害現場の状況を監視することが出来る。

新庁舎は防災対策の機能が拡充され、市長室のある3階を中心に、災害対策本部会議室や防災倉庫などが配置されています。また自家発電機は地下に1万リットルの燃料貯蔵タンクを持ち、通常時消費の約3割程度の発電力ながら、補給なしで3日分を維持することが可能だそうです。

今後検討する施設機能としては、各種の障害者スポーツの普及を想定したアリーナの機能のあり方や高齢者などの健康づくりトレーニングルーム、メインアリーナを周回するランニング・ウォーキングコースを考案しているそうです。またEスポーツは高校生から要望も強く、道内の各施設を参考に高速通信回線の設備等を調査するとしています。

一方で体育施設建設の財源について国の補助金は、今の制度や文科省の予算規模では活用が厳しい状況であり、後年度の負担をどのように抑えていくのかも大きな課題です。

総合体育館は基本計画・設計へ
建設市民委員会による議論を経て、2023年度に基本構想が完了し、新年度は基本計画・基本設計の作業になります。

チャシ跡周辺の整備
市内のチャシ跡群はコロナ後も観光客来訪者が増えています。市は前年にツカマフチャシの駐車場周辺の土地を購入し、いよいよ長年の課題だった大型バスが止められる広さの駐車場の整備に着手します。

また北海道アイヌ協会からイチャルパの会場として使えるようなガイダンス施設としての整備やクナシリメナシの戦いで犠牲となった方々のモニュメントの建設を要望されており、駐車場付近でこれらも整備するための検討を行っていくそうです。

2024年度 根室市 一般会計予算委員会

予算委員会で橋本が質疑した項目の一部を報告します。(続き)

